

瀬戸内みらい会議（４０代・５０代）

平成 21 年 11 月 27 日（金）19 時～21 時

瀬戸内市役所 2 階 市長室

参加者：市内在住の 40～50 代、男性 4 名、女性 2 名

市民から出た意見と市長の反応

- ・鹿忍に住んでいて、東京に 8 年在住し、戻ってきたが、眺めや空気、食べ物など良いなと思えるところも多い。色々な文化もある。現状、困っていることはあまりないが、子供を東京に置いてきている。家族みんなで暮らしたいし、子どもは帰ってきたがっているが、仕事がないのではないかと心配。
- ・牛窓在住。安定的に仕事が出来るところが少なく、人口も減って寂しくなっている。また、人口が減っているので、消防団や PTA など色々な役が回ってくる。働く場所があって、人が増えてくれば、自然と活性化出来るのではないかと。10 数年外へ出ていて、戻ってきたら、牛窓が観光の町になっていた。ペンション村に活気があった頃は良かったが、経営者が高齢化していることや後継者がいないこともあって、だんだん元気がなくなってきている。子供が 2 人いるが、仕事の間があるかどうかは心配。
- ・長船に住んでいる。今は一人暮らし。一人になって暮らしてみると、不便なことがたくさんある。食事や、飲酒をするのも難しい。体の調子が悪くなると、病院のことなども心配になってくる。年をとるにつれ、色々なことが不安になってきた。親もおり、地域に根ざした仕事なので、外に出るかどうかは分からないが、転居しても不思議ではない。
- ・裳掛在住。少子高齢化を実感している。地域には、子供がほとんどいない。小学校に子供が見当たらない。若い世代が同居しているような家がほとんどない。近所の付き合いに出ても、ある程度高齢の人ばかりなのが実情だ。集まって輪を広げようと努力はしている。兼業農家であるが、辞めるにやめられないから続けているというのが実情（田んぼがあるからやっている）。他にも同様の家は多く、あと 10 年も経ったらどうなるのだろうか心配。子供が東京の大学 3 年生。ちょうど就活の時期であるが、恐らく地元には仕事がないから、戻ってこないのではないかと考えている。また、地域の魅力について話をしたことは無く、帰ってこいと言えるほどのものがあるとも言えない。上の子供は、実家から働きに通っているが、ブルーラインが無料になったため、すぐ外に遊びに出てしまい、家にほとんどいないのが現状。
- ・大富在住。一番下の子が県外の大学の 4 年生。就職先を地元で探しているが、無いようだ。向こうの市役所でアルバイト（プロジェクト参加）をしているようだが、面白いと感じている模様。上の子は、実家から岡山市に通勤して

いる。真ん中の子は農業を志していて、祖父に習って農業をしている。大富は、環境も良く、ある程度便利で住みやすい。星も見える。自営業をしているが、経営が厳しい。

- ・ 学生時代、水産を専攻し、網屋さんとして岡山に来た。市役所の南のマンションに住んで5年になる。定年まで、あと15年あるが、どうしようかと考えることはある。特に、この年齢になると、親のことも心配になってくる。定年を迎えた後に、仕事があるのかどうかというのはどこに住もうと心配。マンション住まいの人間であるため、出入りが激しいと見られているのか、地域の役が回ってこないため、そういった点での煩わしさはない。今はスポーツ少年団の役員として、人のつながりが出来てきたが、小学校や中学校を卒業してしまうと、そのつながりが徐々に離れてしまうのは残念。何とかつながりが残せるようにできればと思っている。今の子供たちは、本当に一生懸命になれるものが少ないように見える。教育の重要さを痛感している。

(市長) 私自身も外へ出ていて、帰ってきた。地域の良さを再認識し、生かすことが必要。

テーマ：外に出ている子どもに瀬戸内市に帰って来いと言えるためには

- ・ 働くところがあるのが最も重要。娘の旦那さんが牛窓を気に入ってくれている。が、仕事がない。
- ・ 何かをしようとする施設や、集まる場所がない。そういう場所がないため、みんな岡山や倉敷、神戸などに出てしまう。美術館など文化的な施設や、発表が出来るような場があればいい。先日の新聞（小学生対象のみらい会議）に出ていたが、シンボリックなものがあつたらいいと思う。
- ・ 文化や、趣味の点では、あまり気にならない。ある程度東京等と同様のサービスを受けることが出来るので、最大の問題は働き口。
- ・ 帰ってくるとなれば、それなりの水準の生活が期待される。自分が考える水準の生活を維持することが出来るだけの収入が確保できないと、引っ越してこようと思わないのではないか。
- ・ 大企業の工場に営業に行ってみると感じるのは、地域の住民を軽視しているのではないかということ。例えば、地元採用の人はある程度までしか出世できない。また、地元で物品の調達をしようとしにくい傾向にあるように感じられる。特に大企業にその傾向が強いと感じる。地元の企業と大企業との接点がほとんどないように感じられる。吉永や、和気では中堅企業を誘致しているため、地場産業とのつながりも強い。
- ・ いい学校があると聞いて、子どもは外へ出て行く。邑久高校でも、良い評判が立てば良いのではないか。
- ・ 邑久高校の野球部の生徒は周囲の掃除をしたり、良く挨拶をしてくれたりし

てくれる。素晴らしいと思う。高校だけではなく、小中学校にも伝わってくればいい。小中学校は、自ら選べず、「住んでいるから仕方がない」となりがち。学校選択制までは考えなくていいが、気持ちよくその学校に進めるような評判が立っていると良い。小学校や、中学校でも、「こんな良いことをやっています」というのをアピールして欲しい。良くない評判はすぐに広まるが、いいこと、頑張っていることはしっかりアピールしないと広まらない。

- ・ 地域の人に図書館開放をするなど、頑張っている小学校もある。
- ・ 問題行動で先生が悩んでいるという話を聞く。親との連携をしっかりとってほしい。

- ・ 下水道については、あまり問題ない。
- ・ 工事の効率の悪さは、気になる。
- ・ 最近、排水と用水とを分けているため、農業の観点ではあまり気にはならないが、裳掛地区なら合併浄化槽で十分と思う。

テーマ：自身の老後への不安

- ・ 婦人会がなくなった。高齢の方が増えて、役員へのなり手がなくなった。隣近所に目を向けて、目配りをするような活動がずいぶん減ってきたのではないか。民生委員さんなど、行政と協力して地域のつながりを形成するような機会が必要と考えている。一人暮らしに不安を感じる市民も多いのではないか。何かが起きた時に不安にならないように。子供にそばにいて欲しい（味噌汁の冷めない距離に）。

- ・ 車に乗れなくなったとき、市の運営する無料のバスがあれば、嬉しい。
(市長) 市内を走る無料で乗れるバスがあったら、使う？
- ・ 一方で、最近はお向かなくても持ってきてくれるサービスが増えている。巡回バスまでは行かなくても、オンデマンドバス、タクシーがあれば十分ではないかという気もする。使う方がどこまで負担に耐えられるかだろう。
- ・ 長島がもったいないと思う。医療で長島をもっと活用すべきだろうと思う。
- ・ 市民病院については、現時点では何とも言えない。年に1度か2度しか病院を利用しないため。
- ・ 民間の診療所を利用しがち。
- ・ まだ車に乗れるので、親が病気になったら、恐らく大学病院や日赤など岡山市内の病院に連れていくだろう。祖母が病気になった際には、診療所に入院したが、毎日面会に行くことが出来て便利ではあった。救急病院があると安心。

- ・ 前島をなんとかしないといけない。松食い虫のせいで松が赤くなってしまった。
- ・ 生きがいは、人それぞれ自分で見つけられるように。
- ・ 自分で楽しく生きようと思ふことが必要。
- ・ 何をするにも「場」が必要。色々な活動をするための施設や場所を提供してもらえると嬉しい。
- ・ 生涯スポーツ、ニュースポーツ等に向けた場所を安く提供してもらえると嬉しい。邑久や長船の体育館は、結構埋まっている状況。牛窓の体育館は、いつも空いているので、アンバランスがあるのではないか。生涯スポーツは、手近で出来ることが重要。
- ・ 一人で暮らしていると、寂しい。食事も一人では楽しくない。音楽が趣味だが、聞かせる相手がいないとやっぱり寂しい。岡山市内に、皆の前で歌ったり、楽器の演奏をしたり出来るライブハウスがある。そういう施設があると面白いかもしれない。居酒屋も不足している。